



安全で楽しい環境とは、事故を予防して安全な環境を整え、子どもが安心して、のびのび活動できるような環境のことです。そのためは、まずは子どもを事故から守る工夫をしましょう。

事故を防止するためにも家の中でも外でも親は子どもが誰と何をしておこなっているかを知っておきましょう。



### ● どうすると安全な環境が作れる？

#### 家の中

大人が思っている以上に、子どもにとって危険な場所がたくさんあります。例えば、浴槽などに溜まったわずかに10cmの深さの水でも溺れるおそれがあります。使用後の浴槽は必ず水を抜きましょう。また、危険なものや壊れやすいものを子どもの手の届かないところに置き、触ってほしくないもの（洗剤類、化粧品、かみそり、電池など）は、鍵付きの扉などに保管しましょう。

#### 家の外

意図しない事故もありますが、少しの工夫で防げるものもあります。例えば、子どもを自転車に乗せたままの転倒は、「ちょっとしたこと」で起こりやすいですが、少しの工夫で防ぐこともできます。「ちょっと地面に置いている買い物袋をとり」として「自転車から手を放し」「ちょっと立ち話をし」「ちょっと自転車の鍵を探して」など、子どもを自転車に乗せた後の「ちょっと」は転倒につながる可能性があるため、子どもを自転車の乗せる前に行うほうが良いですね。もし子どもを自転車に乗せた後に「ちょっと〇〇」と気づき、自転車から手を放す必要がある時には、必ず子どもを一旦、自転車から降ろしましょう。また様々な場面において、事前にルールをつくり、日頃からどう行動をするかを教えておく工夫も大切です。例えば、【たろう君は、自転車に乗る前には、ママの横で待とうね。】とルールをつくり、そして「たろう君は自転車に乗る前は、どこで待つか覚えている？」とクイズを出して、子どもが覚えていたら、覚えていたことをほめましょう。忘れていたら教えましょう。繰り返して楽しく教えていき、実際にできたら「たろう君、ママの横で待てるね」とほめましょう。

### ● 安全で楽しい環境づくりができると

#### 子どもへのメリット

- 安全に自由に遊べるでしょう。
- 探検や発見が多い楽しい環境になるでしょう。
- 楽しいことを多く体験できる機会になるでしょう（お絵かき、ダンス、料理、ものを作る、お話をし、遊ぶなど）。
- 好奇心を高め、ことば、思考、集中力、自立を促すでしょう。



#### 大人へのメリット

- 「そこ危ない」「そこ触っちゃダメ」と注意する事が減るでしょう。
- 子どもの行動を安心して見守れるのでストレスが少なくなるでしょう。



●安全で楽しい環境づくりを家の中で取り組んでみましょう。

例1) 歯みがきの場面で考えてみましょう。



- 子どもに合わせた歯ブラシを用意しましょう。
- 子どもが歩き始めた頃は安定して立つことが難しいです。歯みがきの時は歯ブラシでの事故を防止するために、その場に座らせましょう。どの年代の子どもも歯みがきをする場所を決めましょう。
- 子どもは、他人の行動をまねします。
- 子どもにしてほしいことは、大人が手本となってやりましょう。

家族で安全な方法を決め、子どもが守れていたら、ほめましょう。

「たろう君、洗面所で歯みがきができていいね」

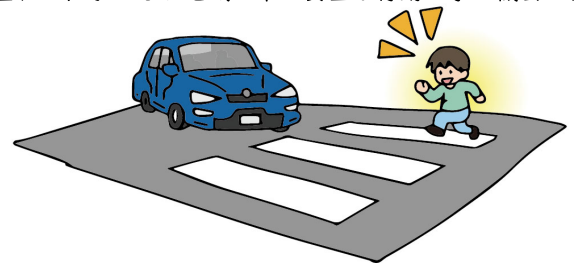
※歯ブラシを口に入れたままで歩くと事故につながります。1歳児が最も多いです。(参考：消費者庁及び独立行政法人国民生活センター)

●安全で楽しい環境づくりを家の外で取り組んでみましょう。

例2) 道路を歩く場面で考えてみましょう。



子どもは大きくなると一人で行動するようになるでしょう。子どもが交通ルールを学び、地域の中で安全に歩けるようになるには時間がかかるでしょう。親は子どもと一緒に地域の中を歩く経験を重ねて、子どもが地域の中で安全な行動を学ぶ機会を作りましょう。



- 青信号でも、横断歩道の前で必ず「とまる」右、左、右を「みる」その時に車が来ていない、または停車を確認して手を上げて横断歩道を渡りましょう。
- 信号機がない横断歩道の前でも必ず「とまる」右、左、右を「みる」その時に車が来ていない、または停車を確認して手を上げて横断歩道を渡りましょう。
- 信号機が点滅していたら必ず「とまる」(横断歩道を渡った道路の先に友達がいても) 次の信号まで待ちましょう。
- 横断歩道を渡るために信号機を待つ時には道路より、1歩後ろに下がって待ちましょう(車やバイクが歩道にはいつてくる場合があります)。

子どもに、気を付けてほしいと思う場面を理解できるように具体的に伝えて教えましょう。

例えば、○「太郎君、ここの道路の奥から、車が出て来ることがあるよ。この白い線のところに立って、オレンジのミラーで車が来ていないことを確認しようね」。

×「太郎君、ここは車が出てくるから危ないよ」「太郎君、この場所は気をつけてね」

(あいまいな注意だけでは、安全な行動は難しいです)



今月の定期便についての感想や  
質問をお聞かせください。

お問い合わせ

子ども未来課 子育て支援係 ☎ 28-7568

科学研究費助成事業(責任者 福岡県立大学 江上千代美)

無断複写・複製を禁ず